

令和3年度第2回 市民活動・ボランティアサポートセンター運営会議 会議録

日 時 令和3年8月25日(水) 10:00~11:50

場 所 姫路市市民会館 5階 第11会議室

出席者 委員7名 事務局5名

(委員) 藤本 真里 座長 米谷 啓和 副座長 井上 清美 委員  
安積 英孝 委員 川石 雅代 委員 前川 裕司 委員  
岩田 和代 委員

(事務局) 市民参画部 平石部長、市民活動推進課 門口課長、  
市民活動・ボランティアサポートセンター 岸本主任 得平主任

次 第

1 開会

2 議題

(議 事)

1 ボランティア活動の手引の改訂について

2 第9回ひめじおんまつりの進捗状況と第10回ひめじおんまつりの内容について

3 閉会

## 会議の進行記録（要点記載）

座 長： 議事 1「ボランティア活動の手引の改訂について」、事務局から説明いただきたい。

事務局： 資料 1 議事 1 のボランティア活動の手引の改訂について  
説明

座 長： 冊子のタイトルや全体の構成、目次のあり方などそういう骨格に関わる部分について皆さんからアドバイスをいただければと思う。

構成員： 今の原稿を無理にページに収めると不自然なので、「ボランティアって何？」とか、ちょっとした問題提起とかコラムを入れてはどうか。漫画の部分が出来上がるとまたイメージが違って来るかもしれないが、今の内容だと、良く言えば網羅的、悪く言えば姫路ならではの部分がないように感じる。情報量が少ないページにコラムを入れることで、姫路のボランティアガイドブックらしさが加わるのではないか。それから、今ボランティアのあり方というのは変わってきており、NPO 法が施行されてから、よく言えば安定的な役割を果たしているが、客観的に最初の次元から考えるとどうしても行政の下請化しているように感じる。仕事も来るし、一定程度社会に貢献している安心感もあるのだろうが、本来の姿はそうなのかという議論もあるので、そういった現代的な話題なんかも入れてはどうかと思う。ただ、初心者のハンドブックにそういう話題が必要かというところはあるが。

座 長： コラムによって身近なことを知ってもらえるし、ポイントで大切なことが伝わるので良いと思う。ほか、何かご意見はないか。

構成員： 2 つあって、1 つはこのボランティアの始め方とかやり方については良いと思うが、姫路市も SDG s を推進していることもあるので、冊子の最初の方に SDG s の観点から、環境や地球のためにもボランティア活動や地域貢献活動が必要だということをゆるやかに表現してはどうか。もう一つは、20 ページに防災に役立つ情報があるが、防災関係のアプリ、たとえば兵庫の防災アプリとか NHK など、ある程度公的で信頼度の高い機関のアプリの QR コードをつけてインストールできるようにしてはと思う。

構成員： タイトルについて、例えば「はじめませんか、ボランティア」とか、「はじめましょう、ボランティア」など優しい表現にしては。もう一つは、15 ページの社会貢献活動というところで、各項目の最後に、「その他」と入れてほしい。記載されたもの

だけでなく他にもあるし、これからも新しいものが出てくる。

事務局： いただいたご意見のなかで、社会貢献活動は、書き足りない部分もあるので、「その他」や「など」を追記する。タイトルはほかの皆さんのご意見もお聞きしたい。情報不足を無理やりレイアウトで調整することになりそうだったので、コラムを入れて充実させたいと思う。SDGs の件だが、当初、特集にしても良いと考えていたが、とにかくボランティア初心者の方に最後まで読んでいただくことを想定するとそこまで詳しくは必要ないのではと判断した。もし入れるとしても簡単に柔らかい内容を考える。災害の QR コードについては、大変良いご意見をいただいたので、参考にさせていただきたい。

構成員： 最初に SDGs をテーマにページを割くと、ボランティアは敷居が高いなと感じると思うので、SDGs もコラムにすると柔らかくなるのではないか。姫路市は SDGs 未来都市の承認を受けたので、そういう流れの中でも必要だと思う。

構成員： タイトルについて、「ボランティア活動の手引き」というのが本来の主旨なので、その文言も入れたほうが良い。それから、サンプルケース 9 の地域の子供達の見守りだが、この活動は、もうそれぞれの校区で出来上がった機能なので、今から活動を始めて登録するというケースとしては少し違和感がある。

事務局： このサンプルケース 9 については、すでに活動されてる団体がセンターに団体登録されるという内容をサンプルケースにしたいと思って描いたので、見守りではないケースに作り変えたいと思う。

構成員： 参考までに聞きたいのだが、通学路の見守りは、うちの校区だと老人会や PTA の地域部がしている。ほかはどういったケースがあるのか。

構成員： 最初は希望者を住民から募っていたが、だんだんと先細ってきたので、老人会に依頼しているようだ。最初から老人会に依頼している校区もある。それが段々と見守り隊など、様々な団体と合併して子供に関わる 1 つの組織になっている。

座長： さきほどのご意見のように、タイトルは目立つもので、初心者の興味を引くものが良いが、「ボランティア活動の手引き」を併記することで混乱がなくなる。前回会議の内容を受けて、利用者の立場に立って、読み進めやすいハンドブックをテーマに作られたようだが、それならさらに徹底してはどうか。たとえば目次も、「ボランティアの始め方」を、ボランティアをする立場からの表現で「ボランテ

ィアをはじめたい！」にするとか、「こんな社会貢献活動も」というセンター目線ではなく「私も社会貢献活動をする！」という風に、立場を替えた目線の目次にすれば良いと思う。タイトルも、ボランティアを始める側に立ったタイトルにして、表紙も始める人がイラストになっていると良いと思う。それから、コラムについては、身近な方でセンターによく来られている方とか、ひめじおんまつりの実行委員経験者に、手引きの趣旨を説明して原稿を依頼すれば、良いコラムをいただけるのではないかな。

事務局： コラムについて、お願いできそうな方に依頼したい。目次に関しても、ボランティアをする側の目線でもう一度考えたいと思う。

構成員： 今回の意見に関連するが、全体をストーリー仕立てにして、その中に主人公を設けてはどうか。それなら、さほど構成を変えなくてもできる。読んでもらうターゲットを考えると、幅広くしたほうがよいかもしれないが、逆に誰か主人公を想定し、タイトルも目次も設定してボランティア事始めのような流れを作れば読みやすいのではないかな。それから、最初に「ボランティアの心得」から始まっているが、これはセンター目線だと感じる。最初に自発性からボランティアをやってみて、結果「こんなことに気をつければ良かった」と話しているページの内容が「ボランティアの心得」だったら、良くなるのではないかな。

座長： 「センターの人に教えてもらった~ボランティアの心得~」のような構成にしては。また、目次にある「センターってどんなところ」は、正式名を書いたほうが良い。ハンドブックを手にしてまず目次を見た時に、「センター」とは何か？と思うのではないかな。

構成員： 幅広い世代をターゲットにしてと思うが、学生はどの世代を想定しているのか。大学生、高校生、中学生、と学生もいろいろあるが、小学生も対象に考えているのなら、難しい漢字にはルビが必要だと思う。また、難しい言葉については巻末に語彙の説明等があればなお良い。

事務局： 想定としては、高校生以上をターゲットにするつもりだが、中には学校から配布していただくこともあるかもしれないので、難しい漢字についてはルビをふって、難しい言葉の説明も工夫したい。事務局からの質問になるが、P22 のボランティアと NPO の内容がこれでよいか、皆さんのご意見を伺いたい。

構成員： ボランティア保険の内容はこれでいいのか？団体の入る保険と行事保険と混同す

るのではないか。

構成員： 保険の種類もいろいろで、保証期間もさまざまなので、書き出すときりがない。行事保険、一般用保険、災害に役立つ保険などの種類があることくらいは載せておいた方が良くかもしれない。詳細は社協に確認していただくということにしてはどうか。

事務局： 基本的に、まったくの初心者の方に見ていただく手引きという想定なので、どこまでボランティア保険に興味を持っていただけるかというところはあるが、いろいろなタイプの保険があり、詳しくは姫路市社協に問い合わせてくださいという流れで、もう少し言葉を工夫する。

座長： P22 の NPO の件はどうか。

構成員： 上の文章はかなり大雑把な文章なので、もう少し丁寧に書いたほうが良い。文章だとわかりにくいので、Q&A 形式のほうが良いかもしれない。それから、2 行目の「基本的にその活動は無報酬です」という文章はひっかかる。

構成員： NPO 法人がある程度注目され始めた時の説明の文章をそのまま使っているので間違いではないが、今は NPO の法人認証を受ける理由が、収益を得るための手段になっている。この説明も間違いではないし初心者にはいいのかもしれないが、今言われたように NPO 法人も福祉施設などでは違う意味で法人化しているところも多くなってきている。

構成員： そもそもこの項目を作ろうと思ったのはなぜか。

事務局： この項目を入れるかどうか悩んだが、ボランティアを始めようと思った時に、NPO って何だろうと思う方もいるのではないかと考えた。しかし、書き始めると NPO についてどこまで詳しく書くべきかと悩み、何かほかに良い内容があれば、変更しても良いとも思っていた。

構成員： 確かに、これから始める方だと NPO とボランティアはどう違うのかと思われる方もいるかもしれない。ボランティアに行く先が NPO 法人ということもあるが、知識がないと NPO と聞くと難しそうだとか、NPO 法人が募集していたらハードルが高く行きにくいと感じる方もいるかもしれない。

構成員： ボランティアと NPO というテーマにするならば、ボランティア活動をする中で NPO 法人とか NPO の団体があるということにしてはどうか。今の内容だと、NPO の説明になってしまっているの、そうではなくて、ボランティアをする時には、こういうボランティアがあり、こんな団体に属してボランティアをすることもあ、そのボランティアの中には有償のものもあれば、無償のものもあるというカタチで、少し論点を変えたほうが良いのかもしれない。

座 長： この冊子を読んで「よし、活動を始めてみるか！」とか「ここに行ってみよう！」と思ってもらえたら、この冊子の目的は十分達成している。なので、NPO についてそこまで詳しい説明がなくても、NPO とはそういうものなんだということが分かれば良い。そういう観点でいうと、先のご意見のように、無報酬という表現は外して、そういう整理で説明があればとてもわかりやすいと思う。

事務局： 書きながら、難しい文章の割に雑な内容だと感じていたので、いただいたご意見を元にわかりやすい文章を考えたい。

構成員： タイトルについて、仮に私の団体がこの冊子を作るとしたら、「ボランティア スタートアップ 1・2・3」など、「スタート」とか「スタートアップ」というキーワードを入れる。1・2・3というのは、最初に始める時のイメージで重複はするが、そういうイメージの方がキャッチコピーとしては良いのかなという気がする。

座 長： 先程のご意見にあった、主人公を作ってストーリー仕立てにするとしたら、その主人公が発する言葉のイメージだ。主人公は、若い大学生、子育てがちょっと落ち着いた女の人、あるいは60代で仕事が落ち着いて違うことしたいというような世代など、どの世代がふさわしいか。

構成員： 私は50代の女性が良いと思う。

構成員： 若い世代は比較的ボランティアを始められる環境が整っている印象だが、高齢者はなかなかボランティアは無縁という印象があるので、良いと思う。

座 長： 50代後半の男性などは、どうか。

構成員： リタイアしてボランティアをしようかという層に対しては、また違う視点で作る必要が生じる。定年間際や定年になった方が自治会活動など地域で馴染むのに時

間がかかるのを見ている。今回は、そういう層ではなく、子供が大学に行って親元を離れたりして、育児に少し余裕ができた方が多いと思うのでその世代を主人公にしてはどうか。

座長： この手引き案を見るとその世代を想定している雰囲気はある。確かにリタイア組を主人公にすると、違う要素を入れる必要が出てくるかもしれない。

構成員： その世代を主人公にするなら、逆に「そもそも NPO とは」という説明からスタートする構成になる。

構成員： 私は産業カウンセラーとして、働く人の話を聞きに行っていたが、50歳を過ぎると、定年退職を迎えつつある世代として、今後どうやって地域になじんでいくかという悩みを持っている方も結構おられた。そういう人たちが広い意味でボランティアから入っていくというのも良いのではないかと思う。「地域に入る」プラス「ボランティア」のイメージだ。仕事を辞める前に地域に入りたいなという人が案内役になっても良いと思う。

座長： 2つの流れの意見が出ているが、事務局としてはどうか。

事務局： できあがった手引きを想像したが、高齢者が主人公だと、生涯現役推進室で同じ様な冊子を作ってるのではと思った。相談に来られる方を見ると、大学生や、主婦の方の相談が多いので、どちらかというとなそういう世代を主人公にした方が手取りやすいのではと思う。

構成員： 相談に来られた時に、その場で渡せるようなもの、なおかつ50代の男性にも目配りをした内容であれば良い。

構成員： 災害ボランティアの現地で役立つもののページに、特に今年度は感染防止の観点から「持参して良かったもの」をテーマにしたコラムがあると良いと思った。それと、サンプルケースの中で、「おしゃべり好きだし・・・」という表現を「お話し好き」のように、少し柔らかい表現にしてはどうか。そういった視点から、もう一度チェックをされた方が良いと思う。

事務局： 表現自体がきつくないか、また男女参画の目線からももう一度見直す。

座長： それでは、次の議事に入りたい。議事2「第9回ひめじおんまつりの進捗状況と第

10 回の内容について」事務局から説明をしていただきたい。

事務局： 資料 2 第 9 回ひめじおんまつりの進捗状況と第 10 回の内容について  
説明

座 長： この会議に実行委員をされているメンバーがおられるので、何か補足があればお願いしたい。

構成員： 体験しようということに重きを置いているが、募集要項など詳細ではもう少し柔軟な表現にする予定だ。

構成員： コロナで第 10 回どころか第 9 回もどうなるか分からず、心配している。なので、サブテーマとしては体験しようとするが、今までのようにはいかないのもその辺りを考えながら参加してほしいという話が出ていた。それから第 10 回については演劇公演という案、それから第 5 回の時にもやった講演会という案も出たが、時間の都合で話し合えていない。

座 長： 第 9 回のこと考えないといけないが、第 10 回のことをテーマにしているということは、今から話し合っているいろいろ変えていこうという主旨もあるのかと思う。そういう視点も含めてご意見をいただきたい。飲食のブースを禁止したのはどういう理由か。また、体験するのが難しいというのはなぜか。

構成員： 本当はした方が良かったが、今回はコロナの影響で禁止にした。

構成員： 第 8 回ではマジック体験や、しの笛の演奏体験などがあつたが、このコロナの状況だとなかなか難しい。なるべく密にならないようにして、今までのような体験の仕方は遠慮してもらおうと思っている。

構成員： 第 1 回から関わって感じるのだが、このまつりは市民向けのまつりのイメージがあるが、実際は市民活動団体の交流会的な要素が強い。幅広く市民に呼びかけても、ほとんど関係する団体の方しか来ていない。しかも、各団体は自身の活動の PR には積極的でも、他の団体の PR を見に行こうとはあまりされていない。それならば、もっと団体同士を啓発するような輪を目的にしたほうが行きがいがあある。その中で、今からボランティアを始めたいという方にはしっかりコーディネートできるブースがあるような、そういうまつりにした方が意味がでてくるのではないかと思う。



座 長： 対象は市民活動をしている人なのか、市民なのかを明確にしてイベントの内容を工夫してはどうかという意見だが、どうか。

構成員： 私の団体では中学生がボランティアに来てくれた。ここ数年、若い人への呼びかけをして、高校生や大学生なども手伝いに来てくれてこれから広がっていくと期待していたのに、コロナでできなくなった。それが非常に残念に思う。

座 長： どの団体も初めての人を歓迎し、むしろ初めての人に自分たちの活動を知ってもらいたいというような雰囲気はあるが、実際の来場者はすでに活動されている方が多い。しかし、まつりの意図としてはまず初めての人に伝えたいという思いがあって、2次的に団体の交流や情報交換の場になっているのではと思う。第10回に向けての話になるが、内容的に、たとえば会場を変更するとか、日程を変えるとか、イベントの柱を変えるとか、そういった大きな部分でのアイデアを何かいただきたい。

構成員： イーグレや市民会館に足を運ぶのは難しい。第10回のまつりとして新しい基軸を出すなら、人が集まる駅前広場などで開催するのはどうか。駅前に1つと、市民会館かイーグレに1つブースを作って2拠点にする。たとえば、セミナーは市民会館で、活動 PR は駅前広場やキャスルビューでなどの開催の仕方もある。近さを取るなら大手前広場という選択肢もあるが、特に市民に知ってもらって楽しんでもらうことを目的とするなら外の方がよい。

座 長： 市民会館は便利な場所ではあるが、目的意識がないと行かないので駅前広場を使うというのは良いと思う。そういう場を希望するしないもあるので、希望する人で組んで駅前で1つ拠点を作る。駅前広場を専有して開催というのは可能か。

事務局： 駅前広場を借りることは可能だが、野外になることと開催に向けて実行委員会では会議の回数を重ねて決めていくので、どの季節でできるか時期を考えないといけない。また、予算が厳しい状況で費用面も含めて考える必要はある。

座 長： 地下1階の中央地下通路はどうか。

事務局： 2拠点なら話は別だが、中央地下通路だけで完結しようとする、参加団体数を絞る必要がでてくる。

構成員： アクリエひめじはどうか。

事務局： アクリエが一番良いが、市であっても減免にならないので、会場費の段階で断念した。

構成員： 飲食を絡めて開催という方法を考えたが、普通の飲食だとあまり意味が無いので、こども食堂と一緒にとか、ボランティアな活動の一環で飲食店をしている事業所などと連携して、フードドライブなど含めて、広がりを持たせると良いのではと思った。

構成員： 全く違う視点だが、テーマを「みんなのボランティア」にして、登録団体主催で商工会議所や青年会議所にも声をかけて、姫路城の周り全部を囲んで輪を作るといイベントはどうか。市民誰でも参加できることにして、姫路市は元気だ、みんながボランティアというカタチで手をつなぐ。1日のイベントで警察とかいろいろあるかもしれないが、そういう表現をしてみたい。

座長： 宝塚では歌劇に関連して武庫川沿いでラインダンスをし、ギネスに挑戦した。姫路城を取り囲むというと、世界中の注目を浴びる。

構成員： その時に「できますゼッケン」をつけると良い。震災の時にあったが、「私は通訳できます」とか、自分ができるスキルや得意なことを背中のゼッケンに書いてPRする。

構成員： 経費は、広報以外に何にかかるのか。警備費用にかかるのか。

事務局： お城の周りで多人数を集める集客イベントは、コロナ等とは関係なく、特別な場合をのぞいて、原則、警察の許可がおりないようだ。

座長： 多くの人に実行委員会の力やセンターのネットワーク力を見せることで、注目をあびる。なので、警察等々ハードルは高いが、何か迷惑をかけないような方法を考えるということも大事だ。

構成員： 「こころの祭」というイベントを11月くらいにしているが、そのボランティア版のようなイベントはどうか。みんなが集まる拠点を、駅前とイーグレなどに設定して、各団体が自分たちの活動拠点でもなんらかの事業や活動紹介のワークショップをしたり、ボランティアへようこそというウエルカムイベントをする。

座 長： こころの祭は、主催者はどこか。

構成員： 実行委員会かと思う。広報は市がかなりバックアップしている。

座 長： これまでにも、1日だけではなくて、1ヶ月位いろんな場所で活動の PR をしてはという提案もあった。いくつか提案をいただいたが、ひめじおんまつりについてはもうよいか。ほか、何か意見や提案はないか。

構成員： 予算の話が出ていたので一つ聞きたい。本年度事業の継続であればそれで良いのだが、来年度のセンターの事業等はどういう予定か。

事務局： 来年度の予算要求に関しては、できるだけ事業を精査するよという指示もあり、事業としては今年度を引き継ぐことになる。ただ、第10回ひめじおんまつりは節目になるので、できるだけしっかり予算要求したいと思い、今回議事とさせていただいた。

構成員： 姫路市は SDG s 未来都市に認証されたので、ボランティアと SDG s のような、そういう内容で何かワンテーマあっても良いのかと思う。ボランティアの中でも、SDG s に関してどういう関わりとか取り組みができるのかという心がけがある 1 年であれば良い。

座 長： それは、講演会やワークショップをするというイメージか。それならば比較的予算要求しやすいように感じる。

事務局： 今年度も講座の内容に取り組むつもりでいた。以前の会議でご提案いただいたように、姫路女学院の山田理事長を招いて講義いただけたらと考えていたが、仕事の都合で関東へ転居されたとお聞きしたので、今年度はあきらめた。また次年度の講座の中で SDG s をとりあげたいと考えている。

構成員： 第10回ひめじおんまつりについて、こころの祭のように市全域で広めて、その拠点として姫路駅前の広場を利用してはどうか。郊外の団体は駅前の拠点に集まり、駅周辺の団体は自分たちの場所で活動発表する。そうすると参加しやすいし、自分たちの活動を無理なく PR しやすい。広域にするという案を拡充すると、面白い発信ができるのではないかと思った。

座 長： 駅前に拠点を立てて、駅から近いところの活動は歩いて回る、スタンプラリーのような形式か。

構成員： チラシでそれぞれの会場の紹介をして、例えば1週間くらいの期間を設けて、自由に行き来してもらおう。駅前広場については、今あるパーテーションなどはほぼ無料で使えると思うので、さほど予算はかからない。各団体へ若干の支援をしてあげると参加しやすくなると思う。これまでのように、一箇所に集まりましょうというのを、そういうところに行きませんかという発信の仕方に変えると、市民活動の啓発になるのではないか。

座 長： 中小の工場や物作りの事業所が多い、ある地域では、街角博物館というイベントをしている。マップを頼りに行ってみると、あちこちに「まちかど博物館」という看板が立ち、いろいろ説明してくれる。そのイメージで、姫路でも市民活動の団体がPRする場所があちこちにあると、看板やマップ、名刺等を作って、まちかど市民活動として地域にアピールするようには。看板や名刺は、出す人の心構えも再認識できるので効果的だ。分散開催という手法も良い。

構成員： こころの祭は休止していたようにも思うが、もしまだ継続しているなら、融合して同時開催するのも良いかと思う。

座 長： 良いご提案をいただいた。分散開催で幅広く新たな市民活動のネットワークを築くという目線で予算要求していただくと良いと思う。それでは、今回の会議はこれで終了したい。次回の会議の日程について、事務局から説明していただきたい。

事務局： 次回会議は、2月頃を目処に後日日程調整したい。